

今日の説教のポイント <マタイによる福音書 10章32～11章1節>

①難解な箇所？

「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っ**て**はならない。平和ではなく、**剣**をもたらすために来たのだ。」(34)。ドキッとさせられる主イエスの言葉です。「**剣**をさやに納めなさい。剣を取る者は皆、**剣**で滅びる」(26:52)、「**平和**を実現する人々は幸いである。その人たちは**神の子**と呼ばれる」(5:9)と言われた言葉と矛盾するように思えますが、どう考えたらいいのでしょうか？

②見かけだけの平和でなく、真の平和を

まず「平和」についてですが、主イエスはとにかく何でも平和であったらいいと考えられるお方ではありません。平和には見かけだけの平和と真の平和の二つがあります。主イエスは、私たちが真の平和を得ることを願っておられるのです！ここで引用されているミカ書では、「**しかし、わたしは主を仰ぎ、わが救いの神を待つ。わが神はわたしの願いを聞かれる**」(ミカ書7:7)と続きます。私たちも、この真の平和を主に願い続けるなら、必ず与えられるのです！

③そもそも、これから宣教に出かける弟子たち**に**かけられた言葉

そもそも、これらの言葉はこれから自分たちだけで宣教に行く弟子たちに向かつて語られた言葉です。彼らには色々な**試練**が待ち受けていました。しかし、神様は、いかなる時にも主を第一にする時には支えて報いを与える、と励まして下さっているのです(34～39節の前32～33節と後40～42節で)。そして、その報いは彼らを受け入れ、助ける者たちにも及ぶのだと言われています、「**はっきり**しておく。わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。」(42)と。

④**海岸教会**で洗礼を受けた乗松雅休に見る、主**に**あつて生きる姿

イエス様は、「**自分の命を得ようとする者は、それを失い、わたしのために命を失う者は、却つてそれを得るのである**」(39)と言われました。難解、しかし**真実な**言葉です。その一例を、かつて日本人に苦しめられた朝鮮の人々に「乗松のような善良なる日本人を愛します」(李烈の長詩から)と言わしめた伝道者乗松雅休に見ます(別紙)。